

守りたい! の心から

交通安全

篠路地区交通安全母の会では、主に子どもたちの交通安全活動に取り組んでいます。今年二月、同会では篠路小学校を訪れ、PTAのお母さんたちに新一年生にプレゼントする交通安全マスコット作りの指導を行いました。

昭和六十三年からこの活動を続けている同会会長の佐野郁子さんは、お母さんたち一人一人に長年の経験から得た上手に作るコツを教えていました。佐野さん自身、お子さんが小学生のときにPTAの交通安全担当になり、そのことをきっかけに交通安全活動に取り組み始めたそうです。そんな縁があり、指導にも熱が入る佐野さん



▲「私も先輩から教えてもらったんですよ」と言いながら丁寧に指導する佐野さん（左端）。会話も楽しみながらの作業です



▲「ランドセルにマスコットを付けたことが、家族みんなで交通安全を考えるきっかけになってくれるといいですね」と話すお母さんたち

「子どもたちを守るのは私たちですよ。小学生のうちに交通ルールを身に付けさせることはとても大切なことです」とお母さんたちに訴え掛けます。「これからお母さんたちと協力しながら活動を続けていきたいですね」と話す佐野さんからは、子どもたちの安全を守りたいという熱意が伝わってきました。

同小PTAでも、お母さんたちが独自に児童の登下校時の交通安全指導を行ったり、自分たちの勉強会を開催したりと、とても熱心に活動しています。こうしたお母さんたちをはじめ、地域ぐるみの交通安全活動によって子どもたちは守られているようです。

心を込めて 伝えます

交通安全

小雪が舞う寒い日の夜、麻生地区では「めいわく駐車追放」と大きく書かれたのぼりを手に、地域の人たちが街頭啓発を行っていました。交通事故を引き起こす原因となったり、除排雪の妨げになったりする迷惑駐車をなくしようと、歩行者や路上に停車中の運転手に啓発のティッシュペーパーを渡し、声を掛けながら夜の街を歩きます。その中で、ひととき元気に声を掛けていたのは麻生地区交通安全母の会会長の須藤貞子さんです。

「笑顔で声を掛けると気持ちよく車を移動してくれるんですよ。私たちの交通安全に対する気持ち伝わっているからだと思います」と、話してくれました。



▲「冬の交通安全運動です。足元に気を付けてくださいね」と、温かい声を響かせる須藤さん（右）



▲路上駐車一台一台に啓発のチラシを付けていく不破さん（右）。「チラシを見て路上駐車をやめてくれるといいですね」と話します

また、十五年以上交通安全活動を続けている麻生地区交通安全実践会会長の不破孝義さんは、白い息を吐きながら静かに、しかし力強くこう言います。「冬は足場が悪く、活動は大変です。でも私たちが地域を安全なまちにするためにやるんです」

地域のたくさんの人たちが交通安全活動に取り組んでいます。ドライバーも歩行者も一人ひとりが交通ルールやマナーを守り、安全なまちを目指しませんか。

交通安全活動についてのお問い合わせは総務企画課交通防災・施設担当係 ☎757-2400 内線214まで、お気軽にどうぞ。